

2025
12

ながとろ

チーム

こども広報

パレパラ

行

ってみた

「埼玉県立自然の博物館」に行ってきました！入口にはメガロドンの巨大な歯の化石があり、その大きさと歯の多さに驚きました。メガロドンの歯は約200本あると教えていただき、今も生きていたらと思うと、少し怖くなりました。



埼玉県立自然の博物館学芸員の北川さんと一緒に記念写真



聞

いてみた

クジラの大きな骨を特別に触らせてもらいました。その大きさや重み、質感を感じることができて、とても興奮しました。セメントの原料になる武甲山などでとれる石灰岩の中には、小さな動物の殻が含まれていることを教えてもらいました。長い時間をかけて、生物と岩石が繋がっていくことに驚きました。

2階には虫の標本がたくさんあり、細かく並んでいて、種類の多さにとても驚きました。



伝えたい！

埼玉県立自然の博物館学芸員の北川さんから、日本にアケボノゾウが生息していた証拠として、「足跡の化石」が重要であると教えてもらいました。みんなにもこの足跡を知ってもらいたいです。また、秩父地域が海だった頃に生息していた生物の化石や模型があり、秩父地域で採取された化石や岩石も多く展示されているので、地元の人々にも一度見てもらいたいです！



2025
12

ながとろ

チーム

こども広報

パレパラ



パレオパラドキシアについて教えてもらいました



行

ってみた



パレオパラドキシアの化石が3体もあり、それぞれに名前がついていました。また、アケボノゾウの足跡や化石も展示されていて、昔の日本に大きな象がいたことを知りました。秩父地域は資源が豊富だったため、地域で見つかった展示物もたくさんありました。他にも、生き物がどのように進化してきたのかについて、学びました。

聞

いてみた

埼玉県立自然の博物館は、104年前(1921年)に「秩父鉱物植物標本陳列所」がつけられ、1981年にその伝統と資料を受け継ぎながら、今の「埼玉県立自然の博物館」という名前になったそうです。長い歴史がある博物館で驚きました。



伝えたい！

自然や化石について、新しい発見がたくさんありました。本やテレビで見るよりも、実物のほうが迫力がありました。動物たちのほく製は、生きているみたいにリアルで、とても驚きました。展示物の数も多く、すごく楽しめました。中でも恐竜の骨がカッコよくて、一番印象に残っています。自然の博物館に訪れて、自然や化石が好きな方や、昆虫が好きな方には、ぜひ行ってもらいたいです！





こども広報とは

「こども広報」は、地域の未来を担うこどもたちが“広報記者”として活動し、町の魅力や人々の思いを自らの視点で取材・発信する取組です。取材を通じて町の歴史や文化、人々の工夫や思いに触れ、発見した魅力を記事としてまとめました。子どもならではの素直な感性や新鮮な視点で、町の新たな一面をみなさんにお届けします。



メンバー

のほら せいいちろう ましも ともひさ おおしま かや
野原 誠一郎さん 眞下 友寿さん 大嶋 駕也さん

埼玉県立自然の博物館



【埼玉県立自然の博物館とは】

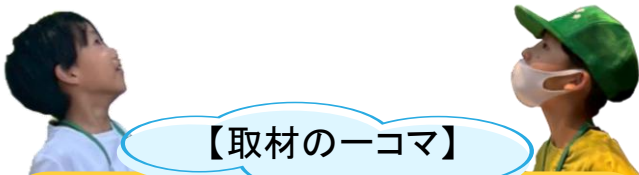
秩父の自然や地質の魅力を楽しく学べる、ロマンあふれる場所です。さらに、恐竜の化石や多様な岩石の展示を通して、太古の地球の姿を身近に感じることができます。



【取材の一コマ】



「埼玉県立自然の博物館」の入口には、大きなメガロドンの模型と歯の化石が展示されており、その迫力にとっても驚きました。学芸員の北川さんからメガロドンが生きていたころの海の様子についても解説してもらい、昔の地球の姿を想像することができました。また、館内には、動物のはく製や化石などがたくさん展示されていました。普段はなかなか触ることができないクジラの大きな骨を触らせてもらい、その大きさにびっくりしました。取材の最後には、メガロドンの歯の化石の前で北川さんと記念写真を撮影し、よい思い出になりました。



【取材の一コマ】

展示されている化石や岩石は、主に秩父地域で採れたもので、かつてこの地域が海だったころのものもありました。展示の中には、武甲山でとれた石灰岩など、さまざまな種類の岩石が紹介されていました。石灰岩はセメントの原料にも使われており、その中には小さな動物の殻が含まれていることもあるそうです。見学の際には、北川さんが優しく、丁寧に説明してください、とても分かりやすく学ぶことができました。

